

人文・社会科学系 研究助成18件決定

大幸財団

大幸財団(名古屋市中東区)は、人文・社会科学系学術研究の本年度の助成対象に18件を決定した。助成総額は1300万円。県内39件の応募から選んだ。

◇対象は次の通り

ポスト・ユークスラヴィアにおける戦争経験を踏まえた「民族共存」モデル再考(門間卓也・愛知学院大文学部准教授)▽グローバルミニマム課税とCFC税制―2つの制度の併存の意義と課題―(中嶋美樹子・愛知学院大法学部准教授)▽嘘(うそ)をつくる際の言語的方略にみられる文化差(太幡直也・愛知学院大総合政策学部准教授)▽脱炭素化社会における

アグロエコロジーの実践と政策の展開に関する国際比較研究(関根佳恵・愛知学院大経済学部教授)▽カントの「人倫の形而上学」―実践的理念論の道としての―(宮村悠介・愛知教育大教育学部准教授)▽外国語における単語認識速度の自動化と即時的イメージ活性化の関係(寺井雅人・愛知工科大助教)▽1910年代―30年代のフランス音楽とジャズ研究(白石朝子・愛知淑徳大文学部准教授)▽ヘッドセットを用いた光照射による概日リズムの位相前進効果に関するランダム化比較試験(吉村道孝・愛知東邦大人間健康学部准教授)▽深刻化する観光公害から地域生活環境を守るための経済政策の総合的研究(近藤健児・中京大経済学部教授)▽戦前期日本におけるスポーツを通じた近代的身体構築に関する研究(来田享子・中京大スポーツ科学部教授)▽藤村記念館設立時における木曾教育会の役割―文化創造事業の動機としての善を起点に―(齊藤公輔・中京大国際学部准教授)

▽大学の外国語教育に応用可能な新たな異文化トレーニング方法に関する実証的研究(市川研・豊田工業大准教授)▽法学分野における日本語CILIL(宮島良子・名古屋経済大経営学部准教授)▽中華人民共和国のトップリーダーたちの対日認識と日中関係―毛沢東と鄧小平を中心に―(齋藤浩・名古屋商科大国際学部教授)▽日本における司法通訳人の採用・認定試験制度設計案(毛利雅子・名古屋市立大大学院人間文化研究科教授)▽パキスタン北部ゲレル渓谷の調査資料の公開と研究―仏教東漸の道をたどる―(影山悦子・名古屋大大学院人文科学研究科准教授)▽「アフターコロナ」の日本社会―少数者の語りに見るCOVID-19諸問題と経験の組織化―(木場安莉沙・名古屋文理大健康生活学部助教)▽石材産業に関する景観要素の可視化による産業景観の価値化(佐藤布武・名城大理工学部准教授)